



平成29年3月28日

各位

会社名 株式会社 ライトオン  
代表者名 代表取締役社長 横内 達治  
(コード：7445 東証第一部)  
問合せ先 執行役員管理部長 三浦 憲之  
(TEL：029-858-0321)

### 平成29年8月期第2四半期(累計)業績予想との差異 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成29年1月24日に公表した平成29年8月期第2四半期累計期間(平成28年8月21日～平成29年2月20日)業績予想と実績値に差異が発生しましたのでお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、平成29年8月期通期(平成28年8月21日～平成29年8月20日)の業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 平成29年8月期第2四半期(累計)業績予想数値との差異(平成28年8月21日～平成29年2月20日)

(単位：百万円、%)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成29年1月24日)	43,400	450	420	30	1円10銭
今回発表実績(B)	42,830	233	227	△160	△5円86銭
増減額(B-A)	△570	△217	△193	△190	—
増減率(%)	△1.3	△48.1	△45.9	—	—
(ご参考) 前期第2四半期実績 (平成28年8月期第2四半期)	46,407	2,932	2,905	1,684	61円89銭

#### 2. 差異発生 の理由

前回予想(平成29年1月24日公表)におきましては、当第2四半期累計期間の全社売上高は前年比93.5%、既存店売上高は前年比93.0%を見込んでおりました。しかしながら、2月度(平成29年1月21日～平成29年2月20日)の冬物商品の販売が伸びず、月度終盤から春物商品に動きが見られたものの、同月度の売上高は計画を大きく下回りました。この結果、当第2四半期累計期間の全社売上高前年比は92.3%、既存店売上高前年比は91.8%となり、当第2四半期累計期間の売上高は前回予想を570百万円下回る結果となりました。利益につきましては、売上高が前回予想を下回ったことに伴う売上総利益の減少を主要因として、営業利益は217百万円、経常利益は193百万円、四半期純利益は190百万円それぞれ前回予想を下回ることとなりました。

3. 平成 29 年 8 月期通期業績予想の修正（平成 28 年 8 月 21 日～平成 29 年 8 月 20 日）

（単位：百万円、％）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 29 年 1 月 24 日)	85,700	1,250	1,200	100	3 円 65 銭
今回修正予想 (B)	81,000	△2,000	△2,100	△3,400	△124 円 14 銭
増減額 (B-A)	△4,700	△3,250	△3,300	△3,500	—
増減率 (%)	△5.5	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成 28 年 8 月期)	86,462	3,733	3,677	1,754	64 円 35 銭

4. 修正の理由

前回予想（平成 29 年 1 月 24 日公表）におきましては、「MD検証の強化による商品の差別化、あるべき商品の品揃えの実現」、「品質のさらなる向上、QRの仕組みづくりなどサプライチェーンの強化」、「ナショナルブランドの強化（デニムブランドをはじめとした圧倒的な品揃え）」といった「商品力の強化」を軸に各施策を実践していくことで、下半期は概ね当初計画の達成が可能であると見込んでおりました。しかしながら、各施策の実践による商品の開発、十分な供給までには前回予想時より時間を要する進捗状況となっており、現状よりも魅力ある売場を実現できるのは当第3四半期（平成 29 年 2 月 21 日～平成 29 年 5 月 20 日）中盤以降となる見込みです。また、前年から持ち越した商品および前年の売れ筋を踏襲した商品の上半期の販売状況は鈍く、下半期においても厳しい販売状況となることを想定いたします。以上の結果、通期の全社売上高は前年比 93.7%（前回予想は 99.1%）、既存店売上高は前年比 92.0%（前回予想は 97.0%）と予想し、通期の全社売上高は前回予想を 4,700 百万円下回る見込みです。利益につきましては、売上高の減少、持ち越し商品および前年の売れ筋を踏襲した商品の徹底的な消化を図るための売上総利益の減少を主要因として、営業利益は 3,250 百万円、経常利益は 3,300 百万円それぞれ前回予想を下回る見込みです。また、不採算店舗の閉鎖を当初予定よりも多く行うこととしたため、（当初閉鎖予定店舗数 46 店舗、今回閉鎖予定店舗数 50 店舗）特別損失が増加し、当期純利益は前回予想を 3,500 百万円下回る見込みです。

以 上